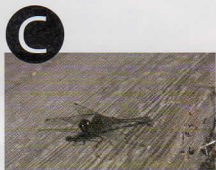


見る人が思わず唸る

カット編集で生きる

トランジションカット

例えば



左ページの Scen1 ~ 5、あなたはトランジションをかけますか？それともカット編集で直につなぐ？

Q.

もし2枚の画のあいだにワンカット挟むとしたら、あなたなら上の A ~ E の画をどう入れますか？

解説 ● 菅原 安

ススメ

編集のつなぎで困ってディゾルブやワイプなどのトランジション効果を多用してはいないだろうか？「ちよっとした」画を撮ってあれば、トランジション効果を使わなくてもそれがカット編集の中で生きてくる。「おっ？やるな」と見る人がぐっとくるポイントは、意外なところに潜んでいたりする。気のきいたちよっとした画（＝トランジションカットと命名）の導入で、作品作りを大きく変えてみよう。

編集でスマートにつなぐ時に欲しい画

あなたなら、 どうする？

Scene1



トランジションカット
A or B or C or D or E
を入れる

直接つなぐ? トランジションで
つなぐ?



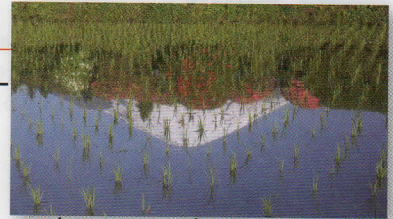
Scene2



直接つなぐ?
トランジションで
つなぐ?

トランジションカット
A or B or C or D or E
を入れる

Scene3



トランジションカット
A or B or C or D or E
を入れる

直接つなぐ? トランジションで
つなぐ?



Scene4



トランジションカット
A or B or C or D or E
を入れる

直接つなぐ? トランジションで
つなぐ?

Scene5



トランジションカット
A or B or C or D or E
を入れる

直接つなぐ? トランジションで
つなぐ?



例題の答え合わせとその効果の説明は P.51 に

そもそも…

「トランジションカット」ってなに？

編集で生きるトランジションカットの効果と意義

効果

1 時間短縮

カットとカットのあいだにある時間を、途中にほかの映像を挿入することでメインの映像から一旦注意をそらし、次のカットに自然につながながら時間を短縮する。つなぎ目に違和感のあるカット編集を避けるのに有効。

時間の単位はいろいろある

- ・短い時間(数秒~数時間)
- ・1日(朝~昼~夜)
- ・季節(春・夏・秋・冬)
- ・年単位1(2年以上)
- ・年単位2(10年以上)
- ・時代1=世紀(100年前後)
- ・時代2=有史(1000年以上)

効果

2 場所移動

上の時間短縮と同様、作品の時間を縮めるためだが、場所が変わる際に前カットと次のカットの変化が大きい時、その差を和らげるために挿入する。

場所についてもいろいろある

- ・近接
(同じ部屋の中、
同一被写体のポイント違い)
- ・中距離
(部屋の中と外、少し離れた所)
- ・遠距離
(互いに見えない距離)

効果

3 内容飛ばし

インタビューや講演会などで内容を効率的に省いたり、場合によっては意図的な内容操作のために映像が挟まれることもある。

効果

4 視覚刺激

似たような画が続き、メリハリに欠ける流れの時にボンと入れることで見る人の視覚が刺激され、集中力を長引かせることができる。また逆に、ヌけている画(ぼっとするような画)を入れて見る人を休ませるという役割を担う時もある。

効果

5 究極には…

突きつめていくと、これは編集そのものとも言えるが、A+B(トランジションカット)+Cの相乗効果で「行間」的な意味を付加することもできる。そこに決まった「答え」はないので、自分の表現を目指そう。

見せたい画・語りたい画をそのまま見せる(投稿動画サイトなど)のも映像の楽しみ方だが、映像作品としてもう一步踏み込むとカットの積み重ねがストーリーを紡ぎ出すということが分かってくる。例えば「すごく綺麗な花を見つけた」という感動をストレートに見せてもいいが、「いつ?どこ?」など疑問を生じさせてしまう。そこで「ここは〇〇です」という導入のカットを最初に見せる。これが編集の第一歩を踏み出した記念すべき瞬間だ。あとは足りないカットを撮影し編集する作業が繰り返される。その際に映像ルールが分かっているとカットの積み重ねで迷わないし、見てくれる人にも分かりやすいものが作れる。

さてここで取り上げている「トランジションカット」とは何か。実は従来の用語にはない、ビデオサロンが考え出した造語で、カッ

トAとカットBの間にはさむ緩衝材的な映像を言う。PC編集では場面転換を目的にディゾルブやワイプなどのトランジション効果を使うのが普通だが、あまり多用すると結局リズム感のない映像になってしまう。

そこでトランジション効果に頼らない場面転換を可能にする映像を「トランジションカット」と定義した。カメラマンはメインカット撮影時につなぎ用の画を撮影するようにとディレクターなどからよく言われるが、その「つなぎ用の画」に焦点を当ててみたというわけだ。トランジションカットは、時間・場所・内容・視覚など各々違う二つの映像の架け橋となると同時に、前後のカットの印象を変えないという難しい役割も担う。その具体的な内容に触れていこう。

それは

メインの映像から次のカットに移る時に入れる緩衝的なサブ映像。メイン素材に近過ぎず遠からずの画が良い。

Point 季節感、特に季語が入った被写体を意識する

普通のテンポの紀行ものの作品なら、説明も含んだトランジションカットのバリエーションは多くなるはず。季語が入った被写体を取り込もう。

春

梅、桜、ツツジ、ツバメ、ヒバリ、蝶 ほか



夏

葉桜、向日葵、積乱雲、金魚、アマガエル、アメンボ、アゲハ蝶ほか



秋

コスモス、ヒガンバナ、紅葉、赤トンボ、モズ、ヒヨドリほか



冬

シクラメン、山茶花、寒椿、枯葉、鷹、鶴、白鳥 ほか



Point トランジションカットに向くショット

凝った構図感の画はトランジションカットに使えないことが多い。メインのカットでは3分割構図(今号Q&A構図を参照)などで画面を整えるが、刺激を低く抑えたいトランジションカットでは落ち着いた日の丸構図やシンメトリーなどの安定感のある画が向いている。また動画ならではの表現として、フレームイン・アウトの画を挟むとつながりがスムーズになる。ピン送りの画面に集中させる効果があるので次のシーンへの導入として良い。もちろん前後のメインカットがきちんとキマっていないとトランジションの効果はないのでそれが最重要だ。

●日の丸構図



●フレームイン/アウト



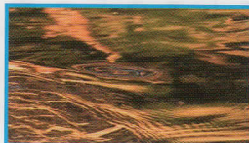
●シンメトリー構図



メイン素材に挟むトランジションカット、特に場面転換用の場合は奇抜な画は向いていない。また前後のメインカットによっては、間に挟む画は全体が黒っぽいもしくは逆に明るく白っぽい画面が向くこともある。

●前後のカットの構図からトランジションカットを考える

メインカットの撮影中に「こんな画はどうか？」と貪欲に周りを見回してみよう。必要ないと思っても撮っておくと使えることも多い。右のどちらの例もトランジションカットの構図がポイントで、カワセミの例は前後カットでは溪流と岩で画面が二分された構図とはまるで違っている。桜のほうは前後カットでは水平線が下めなので夕日はあえて中央分割構図。空と地面の割合など水平分割の位置はカット間で重要になることを覚えておこう。



◆トランジションカット



Point バリエーションを撮影しておくで後で助かる

●サイズを変えて撮っておこう

使用箇所が撮影時点では明確でないトランジションカットでは、前後のメインカットのサイズや色調など予想がつかないので、よりさまざまな設定で画を撮っておきたい。まずはサイズ違いで、同じ被写体でも大・中・小（寄り～引き）の3種類は収めておきたい。また青空だったら空も大きく取り入れておくと繋がりやすい。



●フォーカスイン/アウト

フォーカスアウト



フォーカスイン



フォーカスイン/アウトはトランジションカットの代表的な表現。徐々に被写体がボケていくと次の場面へ移行することを暗示し、逆に徐々に合焦する場合は前画面からトランジションで飛んだ世界を現実に戻す画となる。

●光も味方につけて撮ろう

順光



逆光



順光

光が違うと画もガラッと変わる。明暗差のある2種類を撮っておくと、どちらか（前後カットにより決まる）は必ず役に立つトランジションカットとなる。



逆光

カット編集では音も大事

●現場音が

きちんと編集されていないと画に集中できない

一番よく使われるのがBGM処理で、音の変化をカムフラージュするが、ここではそれ以外に現場音の処理方法を考えよう。

方法① 編集ライン上の前のメインカットの環境音を使い続ける

メインからのつながり目がないので一番自然な感じになる。

方法② 環境ベース音を入れる

元の音にバックグラウンドで環境音をかぶせる。現場の音のつながりが気づかれにくいスタンダードな方法。

方法③ 音量コントロールをかける

フェードイン/アウトを駆使して各カットの音声レベルを揃える。仕上がりを意識し、また現場の音の変化が少ないときに可能。ただし音場（定位）の崩れはヘッドホンでチェックすること。

具体的なポイントは上にまとめましたが、さまざまなジャンルでトランジションカットは生きてくる。そのぶん画のバリエーションも多く存在するので、実際に「何を撮ればいいのか？」と疑問がわくだろう。でもそんなに悩む必要はない。普段撮影している画のバリエーションを増やせばいいだけだ。このページで説明している「撮影サイズ」と「順光&逆光のバリエーション」を意識しただけで普段よりカット数は倍以上に増えるだろう。増えた分が貴重なトランジション

カットの資産となる。ただしそれらを撮るときズームングでサイズを変えたり、構図を少し変えただけでは効果が少ない。大元のメインカットと180度違う画を撮るよう頑張ろう。順光で撮っていたなら逆光のポジションまで回りこむ。サイズはズームングのみではなく、離れたり寄ったり撮影ポジションを変えてみる。作例の花はコスモスとポピーで秋と冬を代表する花だが、どちらも空の面積が多い下からのアングラとなっている。空は前後のカットをつなぐときリセットを掛けやすい映像。テレビでも空からの振り下ろし（上げ）などで場面転換しているのによく見る。また逆光の画もトランジションカットとして使いやすい。被写体はシルエツトだがバックは輝いているので画面全体は明るく、しかも特定のモノに意識を集中させないので、次の面に影響を及ぼさない理想的なトランジションカットとなる。それらのことを踏まえて、次頁の答え合わせを見ていくと、トランジションカットが持っている特徴が見えてくるだろう。

P47 Scene 1~5 × A~E
トランジションカット

活用例

Scene 1

活用例
初夏の尾瀬への誘い



前後の2カットを繋いだだけでもストーリーは成り立つが、手つかずの自然にミズバショウがあるという環境保全的な意味合いを木道に止まるトンボ（高山性のトンボ：ムツアカネ）が表現し、つなぎのショックを和らげている。

Scene 2

活用例
春の温もり



春、タンポポは黄色い花を咲かせ、時の流れが綿毛の実をつきさせ風に吹かれて旅に出る。どちらもタンポポの代表的な画だが、この二つをつなぎたいとき、猫のお昼寝でゆっくり流れる時間をイメージし、実をつけた時間経過をさりげなく表現する。

Scene 3

活用例
富士山麓にて



田植えのイネのアップからゆっくりズームアウトしてもいいが、先が簡単に読めてしまうズームインになってしまう。カット編集だと逆さ富士が突然正立してしまうので、トランジションカットとして「水入れを喜ぶアマガエル」を挿入することでショックを和らげる。

Scene 4

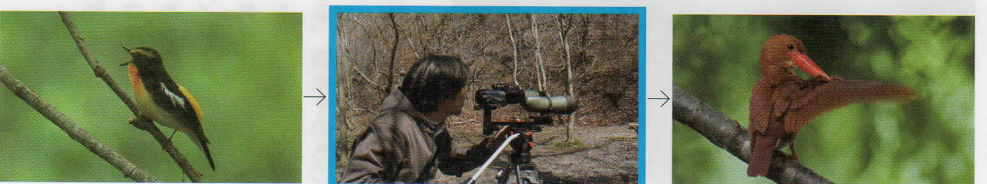
活用例
東京夜景散歩



夜景は被写体としてひとつひとつが独立しているパターンが多く、目を奪われるような輝きとライティングを描いた後の次のカットへの移動はギャップが大きすぎる時がある。そんな時はアウトフォーカスの画を挟むと前カットがリセットされる効果がある。

Scene 5

活用例
初めてのバードウォッチ



憧れの野鳥ショットを編集すると、それらの羅列映像ができあがってしまう。途中に新緑の葉や小川の水を入れるのもトランジションカットとして良いが、中間の撮影風景も後で見てもなかなか良いトランジションカットとなる。被写体(仲間)に気づかれないよう撮るのがコツ。

こんなのが撮れたら作品の格が上がる！
トランジションカット集①



トランジションカット集②



撮り方のコツ▶太陽があと5～10分で沈むタイミングでトンボがよく止まるところに日が重なるようスタンバイし、テレ端でAEの+0.3～0.6補正で撮影。太陽が霞んでいる時が狙い目だ。

撮り方のコツ▶作例は1000mm強の超望遠だがここまで拡大しなくても画になる。満月前の3日間は夕方、満月後の3日間は朝方（満月の日はNG）が月と風景と一緒に撮れる狙い目。あと三日月も狙い目の時がある。

トランジションカット集③



使い方のコツ▶野鳥を撮るのは難しいが、その声は季語として登場するほど一般的なものが多い。季節を表す音のトランジションカットとして使えるので鳴き声だけでも収録しておこう。

トランジションカット集④



撮り方のコツ▶植物はトランジションカットの宝庫。望遠系のマクロでバックをぼかした画はトランジションカットとして使いやすい。レフ板やLEDライトで影を起こす工夫もしたい。

人を惹きつけるトランジションカット撮影&活用術

作品の格を上げるシヨットを撮ろう

トランジションカットは不確かな世界かもしれない。ここに掲げた作例を見ても統一感はない。しかしなんとなくイイナと思わせるのが特徴だと言えそう言える。このページの作例の中でトランジションカットではないハッキリとした目的で捉えたのは、一目瞭然だが左のコマドリの画だ。しかし

自然全般を広く描く時、その一部としてコマドリは存在するので、野山を巡る映像では極上のトランジションカットとなるだろう。逆に言えば、優れたトランジションカットに見合う本編の画が必要となる。編集そのものの話にもなるが、作品のグレードは両者の相乗効果で確実に上がっていく。



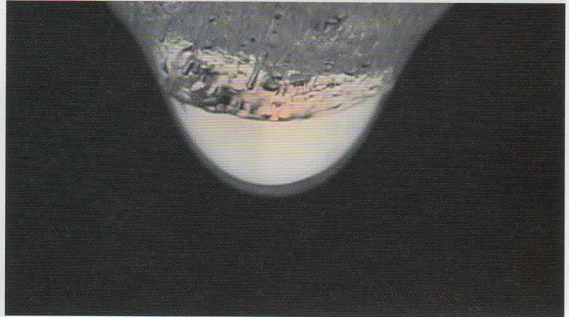
使い方のコツ▶左側を空けてあるのでアクセントが少し強くメインカット的な画だが、朝靄というゆっくり変化する情景のため時間経過を静かに描くトランジションカットとして充分使える。

トランジションカット集⑥



使い方のコツ▶場面転換で空の画は使いやすいが、空=雲には季節それぞれの顔がある。作例の積乱雲はもちろん夏。他にもいわし雲やひつじ雲など、雲は場面転換に季節の意味を持たせることができるので重宝する素材だ。

トランジションカット集⑦



撮り方のコツ▶マクロレンズで撮影。小さな氷柱もマクロで近付くと溶けた氷の中に別世界が広がっている。トランジションカット向けの被写体探しは、さまざまな視点でフィールドを見つめ直すと見えてくる。

トランジションカット集⑧



撮り方のコツ▶撮り方のコツは特段ない画だが、こんな情景を見かけたらもうカメラを向けざるを得ない。そんな感覚がトランジションカット撮りに向いているかもしれない。頭で考えて撮るよりイメージ優先で撮ると、意外と使いどころの多い画になることも。

狙って撮る時ももちろんあるが、偶然が生み出すトランジションカットのチャンスはいつ訪れるかわからず、五感を研ぎ澄ましている必要がある。ここで紹介した作例では右の「寝るネコ」がそうだった。実際の狙った被写体は別のもので、撮影できずガツカリして帰る途中に出くわしたものだ。撮影が成功していたらこの猫には気づかなかっただろう。トランジションカットの撮影チャンスはどんな時にもひそんでいる。

トランジションカット集⑨



撮り方のコツ▶よく探せば足元にもトランジションカット用の素材はある。キノコの撮影環境は暗い林なので、LEDライトでやわらかく光をあてよう。作例は斜め右後から逆光気味であてている。

トランジションカット集⑩



使い方のコツ▶被写体が季節感を語ってくれると編集は楽になる。このフクロウ=コミミズクは冬の渡り鳥で、厳冬を描く時に使うとやさしい場面転換ができる。注意点は季節モノのカットは使う時期をくれぐれも間違えないようにすることだ。

トランジションカット集⑪



使い方のコツ▶マガモをワイド端で近接撮影。山と山や植物などを繋ぐとき動物は使いやすい。しかし広角の画は環境も多く含まれるのでトランジションカットとしての汎用性は低下する=地域限定カットということを覚えておこう。

トランジションカット集⑫

使い方のコツ▶ほのぼの系の画はトランジションカットに向いている。動画ではトンボが止まっている下を猫が通過していく(フレームイン/アウト)。互いに意識し合うことなどおそろく一生ない、まったく違う二者がおいしい味を出してくれている。



映像は撮影・編集・視聴と3回楽しみがある。今回の焦点は編集に目を向けつつ撮影を中心に語っている。撮影の楽しみは、シューティングの満足感を味わえることにある。いっぽう編集は、ジグソーパズルに似ている。ルールに従ってピースを埋めていく地道な作業だが、完成した達成感は大いだが、視聴という形で結実するが、編集時にどうしても見つからないピースがあった時、トランジションカットの出番となる。

必要なピース(画)がない時に苦肉の策で代替画を使う場合、多少合わないのは仕方ない。しかしまったく違う形や色のピースがピタリと気持ちよく納まる時がある。それが今回提案するトランジションカットと言える。ある意味、撮れなかったピースよりも出来栄えが良くなることもある。

実際の作業では、撮れなかったピースの替わりとして助けられることもあるし、新たなピースとして輝かしく機能することもある。決まった形を持たないトランジションカットの探求は、宝探しにも似た楽しみがある。